

## 2024\_0306「大谷資料館（写真）」日々の理科 3499号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「大谷資料館」と聞けば、ほとんどの方は大リーグの大谷選手の資料館だと思うでしょう。しかしこれは「おたに資料館」ではなく「おおや資料館」とよみます。栃木県宇都宮市の郊外にある、「大谷石」の資料館のことです。

宇都宮市の大谷地区は、古くから大谷石（おおやいし）の採掘が盛んで、現在でも採掘が続けられています。大谷石の正体は「軽石凝灰岩」の一種で、新生代第三期の火山活動で、海底に火山灰や軽石が堆積して形成されたものです。御影入り（花崗岩）といった火成岩に比べて軽くて軟らかく、採掘や加工が容易なことが特徴です。多孔質なので耐火性や防湿性にも優れ、石塀、倉、門柱など、さまざまな用途に使われていました。

大谷地区の大谷石は、地下での採掘（坑内掘り）が多いのが特徴です。採掘が終了しても、巨大な空洞は残されている場合もあり、過去にはその地下採掘場跡地が陥没するという事故も起きています。大谷資料館では、その地下採掘場の一部を見学することができます。陥没を防ぐ為に、一定の間隔で「柱」を残しながら掘り進めた結果、まるで巨大な地下宮殿のように見えます。時にはコンサート、テレビロケ、CMの制作などにも利用されるそうです。30年ほど前に、那須林間学校の帰り道に見学しましたが、何度見てもその規模に圧倒されました。

(2024年3月上旬／栃木県宇都宮市大谷)

